

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (東北)		*	*	*
		商店街（代表者）	来客数の動き	・国内政情が安定していることもあり、久しぶりに消費者心理に落ち着きがみられている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・プレミアム付商品券という上乘せがあった前年と比較しても、今年は前年を上回っており、来客数も前年比103%となっている。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	販売量の動き	・大きな注文受注や、ふとん作りの注文があったため、売上が伸びている。ただし、これは一過性のものであり、この状況が継続することは期待できない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・今月は気温の変動が激しかったが、基調は悪くない。特にこれまで不振が続いていた婦人服のうち、前年、一昨年と売上が伸びなかった婦人コートが前年比プラスで推移するなど、回復の兆しが見られている。物産展は引き続き苦戦が続いているが、宝飾などの高額商材に動きがみられるようになってきている。お歳暮についても出だしは不調であったが、ここにきて前年を上回る日が出てきている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・今月の売上は前年比104%と若干の伸びがみられている。3か月トータルでの前年比は101.69%であるため、徐々に数字が上がってきている。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数も増加しているが、客単価の伸びが大きく、更に買上点数も客単価と同じくらい伸びている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今月は販促に次ぐ販促で、集客効果が出た月である。そのおかげで来客数、売上共に4～5%の増加となっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・売上が前年比105%と好調に推移している。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・カウンター周りのコーヒーや揚げ物が好調であり、1人当たりの買上点数が回復している。また、野菜の価格高騰の影響で、定額のカット野菜が支持されており、主婦層のコンビニ利用率が上昇している。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・お歳暮商戦において、法人関係の受注が早く、販売量も増加している。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・消費者はようやく冬支度を始めている。注文服の購買意欲は今一つであるが、修理部門では多少お金がかかっても修理して冬を越そうという客が増えている。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・秋冬商材になり、客単価が上がっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車イベント効果もあり、登録車を中心に販売量が増加している。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車の発売後、販売量が少しずつ増えてきている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・気温の低下や降雪の予報により、灯油やスタッドレスタイヤなどの冬物商材の需要が強まっている。そのため、例年よりも販売量が増加している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	単価の動き	・冬物衣料が動き出し、客単価の底上げにつながってきている。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・前年と比較して来客数が増加しているなど、景気は上向きの兆しをみせている。ただし、客単価は横ばいで推移しているため、年末に向けて動向を注視する必要がある。
	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・前年と比較して来客数は増えている。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宴会場を兼ね備えたホテルとしては、宿泊、宴会、レストランの3部門がそろって良くならないと雰囲気も良くならない。11月に限って言えば宿泊が好調であり、婚礼もある程度の数を稼いでいる。また、一般宴会もここにきてようやく客の流れが出てきているなど、様々なシーズンのピークを迎えた月である。	
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊は前年並みであるが、忘年会のシーズンを迎えて、初めて利用するという企業がわずかではあるが増えている。また、客単価も微増している。	

	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・数か月前から予約状況が順調であり、前月より改善傾向にあった来客数が、今月も順調に推移している。また、予約以外のフリー客の来客数が大幅に増えている。
	旅行代理店(店 長)	販売量の動き	・国内団体旅行の動きが良い。新幹線効果で北海道への数字は好調である。また、沖縄、関西方面への動きも良い。
	通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・最低賃金が見直され、賃金が多少上がっている。景気は労働者の賃金に左右されるが、今後は、日本経済の財源確保の問題が景気に影響するだろう。各企業の差別化とブランディング戦略が重要となる。
	遊園地(経営 者)	来客数の動き	・今年の11月は曜日まわりが悪く連休がなかったが、3つのイベントで天候に恵まれ、団体客の動きが良い。そのため、前年の来客数を上回ることができている。
	商店街(代表 者)	販売量の動き	・穏やかな気候により来客数の動きは落ち着いている。また、店舗により売上の増減はまだら模様であり、同じ業種でも一律に判断できない状況である。
	商店街(代表 者)	来客数の動き	・ここ3か月の状況として、非飲食関係は前年並み又は2%前後の落ち込みとなっているものの、飲食関係は前年比8~10%の伸びとなっており、飲食に対する客の需要が少しずつではあるが上向いている。
	商店街(代表 者)	来客数の動き	・消費者の購買意欲がない状態が続いている。
	一般小売店[書 籍](経営者)	販売量の動き	・台風、その他の自然災害やリオデジャネイロオリンピックなどにより、夏以降、低迷した消費マインドが続いている。
	一般小売店[医 薬品](経営 者)	来客数の動き	・春から業績の低迷が続いている。前年は若い現役世代の客層に旺盛な購買意欲がみられたが、今月はその客層の来店も少なくなっている。全体的に客の購買意欲に勢いがなくなってきた。
	一般小売店[カ メラ](店長)	販売量の動き	・販売量は横ばいで推移しているものの、高額商材の動きが鈍く、売上が伸びない状態が続いている。
	百貨店(売場主 任)	お客様の様子	・ハウスカードのポイントアップによる集客効果により、売上は確保している。しかし、前月同様に客単価が上がらないため、来客数、客単価共に厳しい状況が続いている。
	百貨店(総務担 当)	単価の動き	・お歳暮商戦において客単価が低下している。景気は横ばいであり、消費者の財布のひもは緩んでいない。
	百貨店(営業担 当)	お客様の様子	・客単価が微減している。地方では個人所得の伸びが期待できないため、景気の回復はなかなか期待できない。
	百貨店(買付担 当)	お客様の様子	・販売促進策により前年を上回る実績となっているが、気温低下に伴って季節商材が稼働したことが大きい。ただし、状況が厳しいことに変化はない。
	百貨店(売場担 当)	お客様の様子	・9月に秋冬物バーゲンを開催しなかったこと、防寒物販売のピークである10月の気温が高かったことで、後ろ倒しになり、11月の催事の伸び率が大きく上昇している。ただし、根本的な商況に変化はない。
	百貨店(経営 者)	販売量の動き	・今月に入って、気温の低下に伴い防寒衣料の動きが活発になっている。久しぶりに紳士婦人服の売上は微増となっているが、お歳暮の立ち上がりの動きは鈍い。また、全体の客単価の低下傾向に変化はない。
	スーパー(経営 者)	来客数の動き	・客単価がやや低下気味である。
	スーパー(経営 者)	単価の動き	・11月は日曜日が1日少なかったが、来客数、買上点数共に前年並みである。平均単価も横ばいで推移しており、消費動向に変化はみられていない。
	スーパー(店 長)	単価の動き	・3か月前は前年比96%であった客単価が、今月は野菜価格の高騰などの影響もあって100%近くとなり回復傾向にある。
	スーパー(営業 担当)	単価の動き	・特売などの効果で来客数は前年を上回っているものの、客単価は前年並みもしくは前年を下回っている状況であり、景気は横ばいで推移している。
	スーパー(営業 担当)	お客様の様子	・10月は日曜日が1日多く、売上も前年比103%以上と好結果であったが、逆に11月は98%台と苦戦している。ただし、今年3~10月までの前年比は100.5%となっており、総じて大きな変動はない。
	コンビニ(店 長)	お客様の様子	・ファーストフードや季節関連商材を中心に、品ぞろえを前年よりも増やしているが、販売量の前年割れが続いている。

衣料品専門店 (経営者)	単価の動き	・今月の売上の中心となるはずのコート類の動きが非常に悪い。特に前年まで実績のあった高額なコートが全く動いていないため、前年と比較して10%も単価が落ち込んでいる。
衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・ラニーニャ現象の影響により、前年よりも寒くなっている。そのため、単価の稼げる冬の防寒着が動いて売上をけん引しているが、好不調のバロメーターである来客数が安定していないことが不安要素である。
衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・前年にはなかったセールを仕掛けたが、思ったほど来客数が伸びていない。特に40歳台のニューファミリーなどが減少している。
衣料品専門店 (総務担当)	販売量の動き	・この1年間、来客数、販売量、客単価共に変化がなく、前年比90%の状態が続いている。
家電量販店(店長)	来客数の動き	・来客数は年々減少しており、この傾向に変化はない。
家電量販店(店長)	単価の動き	・4Kテレビなど高単価商材が売れている。また、冷蔵庫や洗濯機などは前年と単価が変わらずに安定している。2~3か月前と比較して、全体的な単価、来客数の動きに大きな変動はない。
住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・受注生産であるが、なかなか成約に結びつかない。今までの受注品を納品している状況であるが、大口物件が少なく、伸び悩んでいる。
住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・商品に対する客の要望が小型化しており、販売価格が低下している。
その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・全体的に目立った動きや要因はない。しかし、相変わらず飲食店が低調であり、一般顧客の動きが悪く、店頭販売の商材が不調である。
その他専門店 [靴](従業員)	販売量の動き	・11月初旬の初雪により冬物の初動が良かったものの、積雪までには至らなかったため、徐々に鈍くなっている。
その他専門店 [白衣・ユニフォーム](営業担当)	販売量の動き	・冬物商材の動きが少しずつ出てきているものの、かつてのように防寒衣料を大量受注するといった動きはみられていない。ただし、今年は雪が多いという予報があるためか、長靴は先行して注文が入っている。
その他専門店 [ガソリンスタンド](営業担当)	販売量の動き	・石油製品の仕入価格が上がってきているが、末端価格に十分な転嫁がされていない。ただし、前年は暖冬であったが、今年は平年の気温を下回っており、販売量が増えている。そのため、収益の下落を物量でカバーしており、業績はなんとか落ち着いている。
一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・米国の次期大統領が決まったが、今の段階で状況が大きく変わるようなことはない。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・相変わらず低調な状態が続いている。特に夜の来客数は年々減る一方である。ランチタイムも、来客数が極端に少ない日も多く、レストラン離れが続いており、景気は低迷している。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・トータルとしては変わらないものの、来客数の動きが安定していない。
一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・例年であれば、忘年会は11月中旬から忙しくなるのだが、今年は12月の各週末に偏っている。
観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・秋の団体客の入込については、10月は良かったものの11月までは継続していない。
旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・11月は個人旅行が他と比べて特に良くないものの、3か月前と比べればそれほど大きく変わってはいない。
旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・例年と比較しても相変わらず来客数が増えていない。
タクシー運転手	販売量の動き	・自分の身の回りのタクシー業界にはあまり変化がなく、いつも同じような成績で推移している。そのため、今までどおりに景気が良いと実感している。
通信会社(営業担当)	販売量の動き	・3か月前と同様の傾向であるが、百貨店や一般商店の販売量が鈍化している。
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・顧客の設備投資意欲に変化がみられていない。
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・加入促進キャンペーンやイベントを実施しているが、あまり効果がみられない。解約者数が減少せず、加入者の純増及び純減数が3か月間横ばいのまま推移している。
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・コスト削減の話ばかりであり、商品が売れない。
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・顧客の要望に変化がみられない。

	観光名所（職員）	来客数の動き	・全体的な来客数は若干減少しているが、内容としては、フリーの個人客は増え、団体客が減少している。旅行形態が変わったのか、変化の理由は今一つはつきりしていない。
	観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数の少ない状況が継続している。イベントなどを開催するものの、客の反応は鈍い。
	住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・今まで競合することがなかった上位ランクメーカーと、価格攻勢でぶつかるとなってきた。そのため、受注に至るまでに以前よりも時間を要している。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街において閉店する店舗があり、集客力が低下している。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候不順と競争環境の激化により、景気はあまり良くない。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年に比べて来客数は減少傾向にある。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・客の来店頻度に変化はないが、買上点数、商品単価を重視して買物をする様子がみられる。
	コンビニ（店長）	来客数の動き	・客層のうち、多数を占めている年配客は寒くなると外出を抑える傾向にあるため、11月の冷え込み始めたころから、来客数が頭打ちとなっている。また、客は特別に価格の安いものを求めているわけではないものの、買上点数が減少している。
	コンビニ（店長）	来客数の動き	・前年同月よりも気温が大分低く、来客数が前年を大きく下回っている。さらに、競合店の影響も次第に大きくなっており、厳しい状況である。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・早めのセールを行っているが、普段スーツを着ない層の客が目立っており、主軸であるサラリーマンの来客数が伸び悩んでいる。先行きの不透明感により、買い控えているのではないが。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・市場は確実に縮小傾向に向かっている。
	住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・店を開けていても、来客数が全くない日がある。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月は、観光客向けの物産館、飲食店共に販売量が落ち込んでいる。在庫を過剰に抱えたくないという意識がひしひしと感じられ、売れた分だけを仕入れるという得意先がほとんどである。また、ポジョレーヌーヴォーの予約も伸びず、前年より売れていない。
	観光型旅館（スタッフ）	販売量の動き	・全体的に申込件数が低下している。実際の格安宿泊プランを出しても、客の反応は鈍い。
	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・企業、団体の忘年会などの予約数が前年と比べて少なく、それ以降の法人利用も減少気味である。
	競艇場（職員）	来客数の動き	・年金支給月とそうでない月の差が大きく出ており、今の時期は売上が落ち込む傾向にある。
	美容室（経営者）	それ以外	・ドラッグストアなどの大型店が近くに出店しており、来客数や販売量が減少している。
	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	来客数の動き	・供給高と受付件数が、10～11月と連続して前年を下回っている。
×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・急に寒くなり、風邪薬などが良く売れており客単価は非常に良い。ただし、来客数が非常に悪く、街なかを歩く人も少ない。店側の努力でなんとかやっているが、景気は悪い。
×	スーパー（経営者）	お客様の様子	・将来の不安に対して、消費者の節約志向が高まっており、客の買い回りが増えている。また、周囲に競合店が移転オープンし、業績に影響が出ている。
×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今月はかなり客の動きが鈍い。建設業関係の仕事も少なくなったのか、朝昼の来客数も減少している。
×	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・提供している商品と客のニーズとの間に差異が発生している。急激に今までの商品とは異質の商品を導入しているため、客が拒絶反応を示している。
×	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・土日の来客数が激減している。
×	その他専門店〔食品〕（経営者）	来客数の動き	・お歳暮の時期に入ったが、出足が鈍く来客数が少ない。百貨店、量販店、コンビニなどの大手が早期受注セール開始時期を年々早めており、地元の顧客が奪われている。
×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数、販売量、単価、すべての数字が悪い。景気はだんだんと後退しており、良くなる要因は見当たらない。

企業 動向 関連 (東北)				
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・前年と比較して、米の農協買取価格が若干上昇している。加えて、燃料価格が前年をかなり下回っている。	
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大型の受注があり、売上は前年を上回っている。ただし、お歳暮商戦においてはあまり動きが良くない。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	取引先の様子	・先端技術をベースとした、新規開発製品の案件が増えてきている。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・設備改造などの受注は、引き続き好調である。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新築工事の許認可が遅れており、着工も遅れているが、小口工事の受注が増えている。	
	農林水産業（従業者）	受注量や販売量の動き	・年末の贈答用ふじりんごと家庭用の注文数は、前年並みで推移している。	
	木材木製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・住宅部材の需要はあるが、価格低迷により収益改善が進んでいない。	
	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・前年及び2～3か月前と比較して、売上は横ばいで推移している。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は横ばいで推移している。	
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して、受注量は横ばいで推移している。	
	建設業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・手持ち工事の繁忙度の高い状態が続いている。	
	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大きな変動要因がない。	
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・契約更新の際に、顧客が他社へと切替える案件が増加傾向にある。	
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・設備投資よりも経費削減に重きが置かれている。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・米国の次期大統領の影響により相場が不透明であり、顧客は様子見の状況である。	
	金融業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・建設業においては、受注量が以前よりも減少している様子である。一方、卸売業、小売業はおおむね横ばいで推移しているが、取扱商品によっては売上増加の兆しがみられている。	
	公認会計士	取引先の様子	・今月は建設関係の申告会社が多いせいか、総じて利益計上をしている企業が多い。ただし、小売業及びサービス業は、売上、利益共に前年比が減少している企業が多い。	
	コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・一部の商品については、新品よりも中古機の問い合わせが多く、販売数も多少増えてきている。	
	その他企業〔企画業〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・広告代理店からの受注量が2～3か月前と比べて減少しており、更に価格的にも圧縮が求められている。	
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・旅行者数の減少により購入金額総額が減少している。また、購入単価も減少気味である。	
	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・毎月5%程度の減少が続いていた販売量が、10月は15%以上の大幅ダウンとなっている。	
	窯業・土石製品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・上期の実績を踏まえた下期の需要想定が、当初の見込みより減少している。公共工事の減少と工期の遅れが影響しているのか、出荷量の前年比の減少幅が大きくなっている。	
広告業協会（役員）	それ以外	・11月の新聞広告は前年並みを維持できているが、TV局はスポットの出稿が少なく、前年割れを見込んでいる。そのため、下期の広告業界では苦戦が続いている。		
経営コンサルタント	取引先の様子	・定点観測している商業施設への入込が少なくなっている。		
その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	取引先の様子	・取引先や競争相手の話からは、価格競争だけが先行しており、取引量などが伴っていない。なかなか売上が上がらないというのが実態である。		
x	-	-	-	
雇用 関連 (東北)	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・10月から運用開始した行政機関の受託業務が安定して推移しており、3か月前と比較して景気は大きく改善している。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・特に中小企業の営業職の募集が多く、景気が上向きであることを実感している。	

	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 求人を見直し募集する企業もあり、求人数は堅調に推移している。夏ごろの動きと比較しても、増加傾向にある。
	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・ 派遣開始人数が増加傾向にある。長期ポスト、紹介予定派遣については、オーダー依頼から開始まで短期間で決着がつく事例が増えている。一方で人材確保は依然として厳しい状態が続いている。
	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・ 少子高齢化に伴う労働力不足という要因もあるが、有効求人倍率は継続して上昇傾向にある。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 求人数は横ばいで推移しているものの、求職者の希望する案件とのミスマッチが多い。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・ 通常の年末と比較しても求人のニーズが少ない。
	アウトソーシング企業(社員)	それ以外	・ 受注量は例年並みで推移している。
	新聞社[求人広告](担当者)	周辺企業の様子	・ 個人消費が低迷しているなかで、景気回復となるきっかけが見当たらない。
	職業安定所(職員)	それ以外	・ 有効求人倍率は5か月連続で前月を上回っているものの、県内最下位の位置からは抜け出せていない。
	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・ 新規求職者数は7か月連続して減少、有効求職者数も42か月連続して減少している。また、有効求人倍率は1.70倍を超えており高止まりの状態である。
	職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・ 製造業のなかでも自動車製造関係は景気が良いという事業所もあるが、それ以外の製造関係、建設関係などは、大きな変動はなく、景気に影響は与えない様子である。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・ 新規求人数は前年同月比で17%強減少しており、月間有効求人数も16か月振りに減少している。ただし、パートなどの非正規求人が減少したものであり、正社員の求人倍率並びに全体における割合は微増している。また、求職者数も前年同月と比較して微減している。そのため、有効求人倍率は4か月連続して1.20倍台となっていることから、景況感に及ぼす影響は少ない。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・ 新規求人数、有効求人数共に、前年と比較して増加傾向が続いているものの、景気が良くなっているとまではいえない。
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・ 10月の有効求人倍率は前月よりも更に上昇して1.40倍台となっているが、新規求人数や有効求人数に大きな変動はなく、景気が良くなっているという実感はない。
	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・ 復興関連求人などの減少もあり、今年4月以降は新規求人数の前年比は減少で推移している。新規求職者数はほぼ横ばいで推移しているが、10月までの累計において、45歳未満が減少しており、45歳以上は増加、特に55歳以上で増加幅が大きくなっている。
	学校就職担当者	求人数の動き	・ 前年と比較して獲得求人数は微増状態であり、大きな変化はみられない。
	新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き	・ 都市部では若年層を中心に求人が多少増えてきているが、地方ではアルバイトを含めて激減している。求人数をみる限り景気の上昇機運はみられていない。
x	-	-	-